

# 2023年2月20日月 山陽新聞 MEDICAにて 「緩和ケア」についての記事が掲載されました

緩和ケアに対し、「病気の末期に痛みを和らげるケア」というイメージを抱いている方は少なくないのではないか。世界保健機関（WHO）は緩和ケアについて、「生命を脅かす病気によって生じるあらゆる問題に直面している患者とその家族に対し、早期から適切なケアを行うこととクリティ・オブ・ライフを改善するアプローチ」と定義しています。したがって、病気の進行にかかわらず何かしらの問題を抱えているつらい場合、例えば、痛みやだるさなど身体的な問題、気分の落ち込みなどの

## ① 緩和ケア

倉敷成人病センター病院長 梅川 康弘

### 写真1 機械浴室



## 写真2 食堂・談話室



精神的な問題、経済的な不安などの問題も含まれます。がんだけではなく呼吸不全、心不全の患者さんも対象になります。

緩和ケアでは、患者さんが苦痛と感じている各症状を取り除く治療や処置を行います。病気が診断された時点からすでに何らかの困りごとがあれば、緩和ケアを開始しますし、病気の進行にかかわらず、その後も治療と並行して行います。つまり、外来（通院）と入院、在宅のどの段階でも受けられることがあります。

緩和ケア外来では、痛みやたるぎなど身体症状のコントロールや、生活のなかでの困りごとなどがないかと一緒に考え、それの問題を克服するための処方やケアを提供します。緩和ケア病棟では、入院患者さんがひとりひとりの苦痛を和らげるために、どのようなことができるのかを考えて、個別化した医療とケアを提供します。

いずれの場合も、さまざまな専門家が集まってチーム（主に緩和ケア担当医師を由心に、がん専門の看護師や薬剤師、管理学

## ひとりひとりに寄り添う医療を

養士、セラピスト、ソーシャルワーカーなど)として対応します。

14床の病室はすべて個室（室料差額は無料）です。感染対策を行った上で面会制限は設けず、いつでもご家族と会つことができます。家族浴室や機械浴室・写真室のほか、ご家族が患者さんのために手料理を振る舞つて、一緒に食事をすることができる食堂・談話室・写真室も備え、多目的スペースとしてもご利用いただけます。付き添いのご家族の方は、家族控室でゆっくりお休みいただけます。

当院に受診中の患者さんだけではなく、他院通院中の患者さんもご相談をお受けいたしますので、緩和ケア外来にお問い合わせください。

2111) 倉敷成人病センター (086-422-1